

# 「落花生」生育情報（第1報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

令和4年7月19日  
千葉県農林水産部  
生産振興課

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育情報を提供するものです。  
調査時点での生育状況をまとめたものであり、本年の収量を保証するものではありません。

## 1 生育状況

### 1) 発芽状況

5月中旬は雨天が多く、気温が低い日もあり、5月上中旬には種したものでは一部で発芽不良がみられましたが、以降の気温は平年より高く推移し、順調に発芽しました。

### 2) 開花状況

は種日から開花期までの日数は平年と比較して短く、特に梅雨明けが早かった影響から、は種が遅いほど、開花までの日数が短くなり、生育が早まっています。

### 3) 地上部の生育

梅雨明け以降、気温が高く、日照時間が確保されていることから、最長分枝長は平年と比較して長く、乾物重も重く推移しています。特に種が遅いほど、開花期が前進し、生育が進んでいるため、乾物重も平年より大幅に重くなっています。

表1 作況調査成績（7月11日調査）※対比は日数、又は平年比

品 種 名	年次	は種日	開花期	開花日数	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m <sup>2</sup> )
千葉半立	本年	5月26日	7月6日	41日	16.4	94.1
	平年	5月26日	7月7日	43日	16.6	79.4
	対比			2日早い	99%	119%
ナカテユタカ	本年	5月26日	7月1日	36日	17.7	143.1
	平年	5月23日	7月3日	42日	16.2	113.4
	対比			6日早い	110%	127%
Qなっつ (千葉P114号)	本年	6月1日	7月5日	34日	13.0	78.0
	平年	5月30日	7月5日	36日	13.6	57.3
	対比			2日早い	96%	137%
おおまさり ネオ	本年	5月23日	7月1日	40日	17.4	139.8
	前年	5月23日	7月3日	41日	16.8	97.0
	対比			1日早い	104%	145%

\* 本年値は、各調査地点の平均値。「千葉半立」は千葉・印旛・香取地区、「ナカテユタカ」は千葉・海匝・長生地区、「Qなっつ」は印旛・香取・長生地区、「おおまさりネオ」は千葉・印旛・君津地区。

\* 平年値は、圃場変更がない限りは過去7年間（「千葉半立」、「ナカテユタカ」）または過去6年間（「Qなっつ」）の調査データから最大・最小を除く平均。ただし、「おおまさりネオ」は前年との比較値。

\* 対比はラウンド処理をしているため、小数点以下が合わない場合がある。

表2 (参考) 落花生研究室(八街市)の作況(本年の値、7月11日調査)

播種時期	品 種 名	開 花 期	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m <sup>2</sup> )
標 播 (5月20日 播種)	千葉半立	6月30日 (1日早い)	22.5 (122%)	156.9 (130%)
	ナカテユタカ	6月28日 (同じ)	18.7 (111%)	143.6 (137%)
	Qなっつ	6月29日 (同じ)	20.1 (113%)	138.5 (131%)
	おおまさりネオ	6月28日 (同じ)	19.0 (104%)	155.9 (140%)
晩 播 (6月9日 播種)	千葉半立	7月11日 (3日早い)	13.1 (127%)	47.7 (190%)
	ナカテユタカ	7月 8日 (5日早い)	11.6 (123%)	44.1 (181%)
	Qなっつ	7月10日 (4日早い)	10.9 (115%)	42.0 (176%)
	おおまさりネオ	7月 8日 (5日早い)	12.5 (127%)	56.4 (212%)

\*栽植密度は5,128株/10a。カッコ内は、平成29年～令和3年の平均値対比を示す。

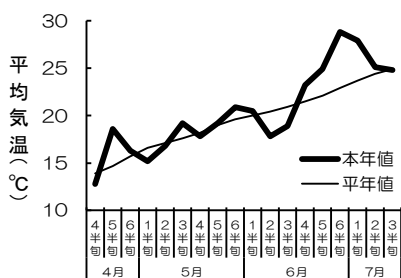


図1 気温の推移(アメダス、佐倉)

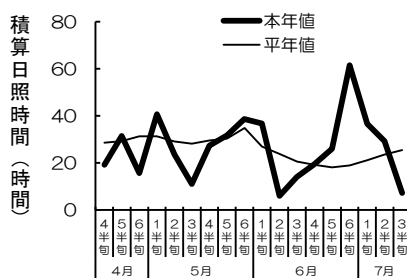


図2 日照時間の推移(アメダス、佐倉)

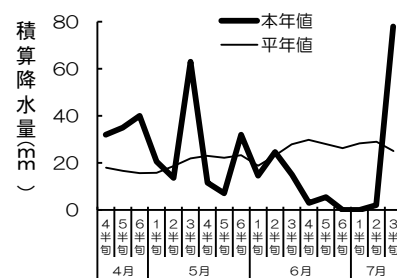


図3 降水量の推移(アメダス、佐倉)

## 2 これからの管理のポイント

### (1) 十分なかん水を行いましょ

7月中旬～8月上旬は、落花生の子房柄が伸長して地中で莢が肥大する時期です。この時期に干ばつ害を受けると、空莢や未熟粒が発生し、収量が大きく減少します。

また、8月上旬以降に干ばつに遭うと、幼芽褐変症が発生しやすくなり、種子に発芽障害が生じます。そのため、

- **開花期後20日頃から、週1回を目安にかん水し、採種する場合は、開花期後40日頃にもかん水しましょう。**
- **1回のかん水量は、30ミリ以上の「十分なかん水」を心がけましょう。**
- **「おおまさりネオ」は、莢の充実期に、多くの水分が必要です。**  
開花期後20～60日頃にかけて定期的にかん水をしてください。(詳細別紙)

(参考)

開花期後20日にかん水すると、稔実率が上がる。

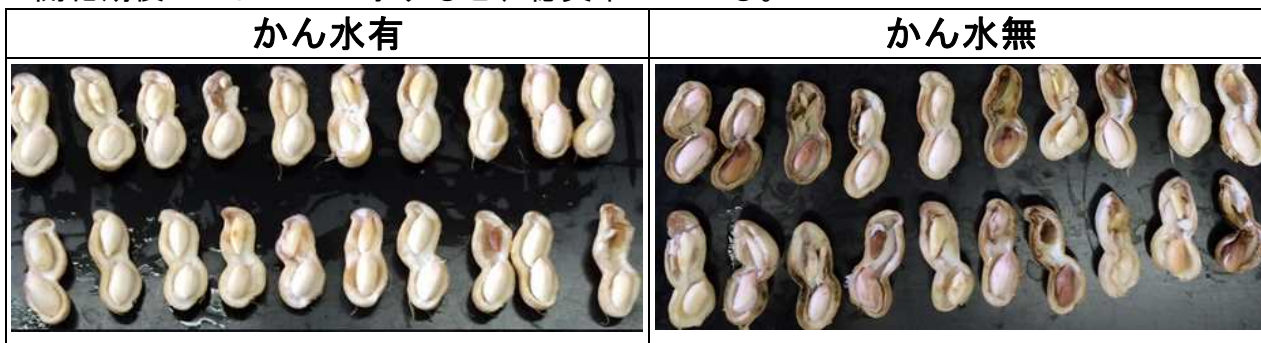


図 開花期後のかん水有無の違いによる子実の状況 (平成27年千葉県農林総合研究センター)  
(ガラスハウス内枠ほ場での調査結果、開花期後40日の子実の状況)

### 3 病害虫の早期発見・早期防除を徹底しよう！

(※) 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

**「茎腐病」** 茎の地ぎわ部が腐り、地上部がしおれ、やがて枯死します。発生が認められたときは、ほ場には**トップジンM水和剤、ベンレート水和剤**を散布し、被害株はすぐに抜き取り、表土と一緒にほ場から持ち出し処分しましょう。



薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	1,500 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内
ベンレート水和剤	2,000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内

**「白絹病」** 高温・多湿条件下で発生しやすく、地ぎわ部が侵され白い菌糸が密生し、やがて発育不良となり、枯死します。例年発病するほ場では、**フロンサイド粉剤、アフエットフロアブル**を 株元に散布しましょう。発病した場合は、被害株をすぐに抜き取り、表土と一緒にほ場から持ち出します。



薬剤名	使用量（倍率）	使用液量	使用時期	使用回数
フロンサイド粉剤	20kg/10a	—	収穫 45 日前まで	1 回
アフエットフロアブル	2,000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内

**「褐斑病」** 葉に円形の斑点ができる病気で、病状が進行すると落葉します。本病は発生初期の薬剤防除効果が高いので、発生が見られたら早期に**トップジンM水和剤、ベンレート水和剤**等の薬剤を散布しましょう。今年は発生が多くなっていますので、注意しましょう。



薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	1,500～2,000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内
ベンレート水和剤	2,000～3,000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内

**茎腐病・白絹病は、連作を避け、他作物と輪作して、被害の軽減に努めましょう！**

# 「おおまさりネオ」は、かん水を十分に！

## ○子実の充実には水分が必要

「おおまさりネオ」では、莢の充実期に「おおまさり」や「千葉半立」よりも多くの水分が必要です。土壌が乾燥すると、子実の充実不良が発生しやすくなります。



## ○莢の肥大・充実期に定期的なかん水を

開花期後、20～60日頃が莢の肥大・充実期です。この時期に、十分な水分があると子実もよく充実します。ほ場の乾き具合を見ながら、10日に1回程度十分な量のかん水をしてください。

\* 開花期：全株のうち半分の株が開花した日



開花期

収穫期

↑ ↑ ↑ ↑ ↑  
20日 30日 40日 50日 60日

肥大・充実期

## ○かん水量は30～40mm

1回のかん水量の目安は30～40mmです。土壌が乾燥している時ほど、かん水量を多くしましょう。

\* かん水量の測定：かん水する畑に桶を置き、溜まった水の深さでおおよそのかん水量を測定できます。